

# 中日ニュース

シネスコ版

山口新聞 No.137 裸ん坊チリ-防府元商會-のろ- (本編トップへ追加)

高知新聞 No.296 本編同レ No.461 37.11.6  
新潟日報 No.124

## 一、"ぐれん隊" 追放へ

—東京

街の暴力一掃をめざす東京都のぐれん隊防止条例はいよいよ十一月十日からスタート。警視庁では、大がかりな取締り体制を敷いています。タフ屋ボン引きからチンピラにいたるまで盛場に巣食うぐれん隊は四万人と推定され、ちよつとでも、うろつこうものなら一網打尽です。

## 一、大詰の日韓会談

—東京

訪米の帰途再度来日した韓国の中中央情報部長は十月十二日自民党きつての日韓交渉促進論者といわれる石井峯両氏と意見を交換、そのあと、大平外相と会談し、双方の譲歩によつてかなりの歩み寄りを見ました。その夜、大野副総裁をはじめ、日本側の実力者全員に会つたことによつて日韓交渉は峠を越したものとみられています。

## 一、アルピニストに訴える

### 連休遭難始末記

—北アルプス

今年の冬山もあいつぐ遭難の悲報とともに幕をあげました。

十月、十一月は気圧配置が夏型から冬型にうつる時期で天候は不安定。秋山は冬山よりもむつかしいとされています。三日、四日の連休も中部山岳地帯はみぞれまじりのふぶきという悪天候に見舞われました。

そうしたなかで軽装備の神風パーサーが登山を強行したため遭難合計十件、十九人の死者を出しました。なかでも穂高の霧凧山岳会の場合など五人の会員が遭難、残りの霧凧山岳会も救助隊に加わりましたが、かえって足手まといになる仕末。

それに遭難収容作業に三日もかかるという悪条件。又北鎌尾根で遭難収容していた救助隊員が墜落死亡する二重遭難事件がおきました。神風登山に対する非難はますます大きくなっています。